

わたしの主張大会2026 滝呂校区大会

校長 鈴木 雄詞



3人の6年生が、代表で主張作文を発表しました。どの発表者の内容も、自分の経験談にとどまらず、社会全体にメッセージを投げかけるものでした。また、自分の考えや言いたいことだけを強く発するのではなく、仲間・家族・地域の方など周りの人たちのことをしっかり考えた上での発表でした。

「失敗と書いて成長と読む」

「失敗と書いて成長と読む」は、故 野村克也さんが残された言葉です。まさに、小学生の子どもたちは、失敗を経験し、乗り越えていくことで成長していきます。その「失敗」のひとつに「友だちとのトラブル」というものが増えてきたように思います。

学校生活の中や登下校中に、あるいは遊びのオンラインゲームの空間の中で、子ども同士のトラブルというものは発生します。大人の社会においても、どんな形であれ、人と人が関わって生活する以上、すべてがうまくいくとは限りませんし、人間関係に悩むことは一度や二度ではありません。しかし、どうやってそれを乗り越えたかという経験がその人の成長につながっています。小学校という小さな社会においても、日々、何らかのトラブルは起こります。そのたびに、担任を中心に当事者や周りの子どもたちから丁寧に聞き取りを行い、互いの言い分をすり合わせ、反省すべきは反省し、謝罪すべきは謝罪する。そして、その時どうすればトラブルにならなかったのか、これからどのように接していけばよいのかを子どもたちに考えさせます。子どもですから、自分だけの力で解決するのは難しいです。ですから、教師が解決に向かうプロセスを仕組んで保護者さんの協力も得ながら、お子さんにどんな力をつけてほしいかを共有しながらすすめていくことが大切になってきます。そんな子ども同士のトラブルの主な原因は「言葉のやり取り」にあるような気がします。言葉は人をよい気分にさせることもあれば、いやな気分にさせることもあります。発する人が思っている以上の影響力があります。昨今、自分以外の人の「命」や「存在」を大切にしていけないと思える言葉が増えているように思います。小学生の口からもあまり抵抗なく心無い言葉が発せられるようになってきました。軽い意味で言ったとしても、言われた人はもちろん、聞いていた人も悲しい気持ちになります。「言葉がもつ力」に気付き、みんなが楽しく過ごせるように適切に使ってほしいと願っています。

